

2018 埼玉宣言

大会テーマ：「伝承」～子どもたちへ手渡したい未来～

“子どもは時代の鏡”と言われます。子どもの育ちと子育てを取り巻く社会環境は、便利で快適、豊かになる一方で児童虐待や貧困などの社会的養護を必要とする家庭が増加しています。また、心身の発育不全などの子どもの育ちにも大きな影響をもたらす「社会成熟の矛盾」となって表れています。この現状に対して「子育て支援・保護者支援」及び「子どもの育ち・子育て支援」への期待は大きく、更なる充実の必要性を感じます。

今大会は「蔵の町」川越で開催しました。日本古来の豊かな子育てを“変えてはいけないもの”として子育ての蔵でまもり「子どもへ手渡す未来」として「伝承」すべく研究討議を重ねてきました。さらに全国の子ども子育て支援者相互の交流を大切にしながら、「十人十彩な物語」をはじめ、前大会でも企画された「子育て屋台村」を「子育て横丁」に引き継ぎ、各地の子育て情報の共有と新たなつながりを進めてきました。

1. 子育てや保育をサービスにしない

生命は“つくる”“つくらない”というように「もの」として扱われるものでなく、様々な奇跡に導かれて“授かる”ものです。生命のために必要な水や空気をサービスといわないように、子育てや子どもが育つためのより良い環境づくりは、サービスではなく、全ての子どもが生きて成長するために不可欠の社会的財産との認識を共有していきたいと思えます。

2. 子育ての蔵キーステーションになる

「自己と社会性の心の力」を育むために「食う・寝る・遊ぶ・つながる」という子どもの姿から、伝承されるべき子育ての知恵を大切にします。子育て支援拠点および保育園・こども園が子育ての蔵としての役割を担っていることを確認し、親から子、子から孫へと伝承する地域の子育てのキーステーションにします。

3. 保育・子育て支援の専門的価値のさらなる向上に

親を加害者にさせないために不適切な養育・虐待に気づく目を養い、「なんとなく気になる」ことが「専門的な気づき」になることを自覚して、アセスメント力を高めて保育の専門的価値をさらに向上させていきます。

以上のことを宣言します。

平成30年12月4日

第9回子ども・子育て支援全国研究大会参加者一同